

## 令和7年度 第6回福部地域振興未来会議 議事概要

- 日 時 令和8年3月18日(水) 9:00~10:30
- 会 場 福部町総合支所 2階 第2・3会議室
- 出席委員 岩崎幸子、上山弘子、宇山英俊、加藤美幸、岸本正枝、谷口孝義、中川玄洋、西尾祥幸、中島幹夫、濱田香(順不同敬称略)
- 欠席委員 西田一幸、松田浩稔(順不同敬称略)
- 事務局 米澤支所長、福山副支所長兼地域振興課長、瀬戸川産業建設課長、水戸口市民福祉課長、山田地域振興課長補佐、多賀主任

### 1 開 会

### 2 議 題

#### (1) 令和8年度地域おこし協力隊の募集について

【事務局】 ~資料に沿って説明~

第4回福部地域振興未来会議において、鳥取市福部町地域おこし協力隊の募集に係る予算要求について説明を行った。

現在、予算は議会の議決前であるが、令和8年4月からの募集開始に向け、募集要項(案)を作成したところである。

今後は、令和8年度中に募集を行い、令和9年の雇用開始を予定している。採用後は3年間継続して活動していただく予定である。

【委 員】 業務内容が幅広いため、「どのような人材を求めているのか」が分かりにくい。

また、県内の多くの地域おこし協力隊が、地域の便利屋のような役割となり、1年目で退任してしまうケースも見られる。

そのため、福部町として解決したい課題を整理し、優先順位を明確にしたうえで、募集内容を検討する必要があると考える。

また、募集期間については4月から7月までとするのではなく、10月頃まで延長してはどうか。

【事務局】 求める人材像については、業務内容が幅広くなっていることは認識しており、活動内容については、3年間の活動期間の中で徐々に重点化していくことを想定している。地域おこし協力隊が本支所で勤務する場合、初年度から専門的な業務を求めるのではなく、まずは地域を知ってもらう期間として位置付けている。

そのうえで、3年間を通じて人材育成を行い、地域課題への理解を深めながら活動していただくことを想定しており、業務内容を幅広く設定しているのも、まずは福部町全体に目を向けてもらう期間を確保したいという趣旨によるものである。

また、鳥取砂丘には年間約160万人の観光客が訪れているが、その経済効果が福部町に十分還元されていないとの声を多方面から聞いている。

統計上、観光客の約8割がお土産を購入しているとされており、単純計算では大きな

消費額が見込まれる。

しかし、現状ではその恩恵が地域に十分及んでいないと考えている。特に、砂丘観光地で販売されている土産品の大半は、鳥取県中部・西部の製菓工場で製造されており、砂丘地域には販売手数料のみが落ちている状況である。そのため、製造や調達の拠点を鳥取県東部や福部町内へシフトできれば、地域経済の循環につながるのではないかと考えている。

こうした課題に対応するため、らっきょうや梨など既存の地域資源を高付加価値化できる視点を持った人材に定着していただきたいと考えている。

また、既存団体だけでは対応が難しい部分についても、協力隊員から助言をいただきながら、地域と一緒に取り組む、発展につなげていきたいと考えている。

**【委員】** 福部地域の特産品は農産物が多い中で、鳥取砂丘周辺の土産店へ十分に供給できる量を生産することは可能か。

また、鳥取県中部・西部の製菓工場と比較した場合、生産規模や流通面においてコストパフォーマンスで不利になる可能性が高い。

**【委員】** 生産ロットの観点では、福部地域の主な特産品は梨やらっきょうであるが、鳥取県中部・西部の製菓工場で製造されるらっきょう関連商品についても、多くはJAから原材料を仕入れて販売している状況である。

そのため、既存の製菓会社を競合相手とした場合、福部地域単独で対抗することは容易ではなく、企業誘致を含めた体制整備についても検討が必要ではないかとの意見があった。

**【事務局】** 最終的には、製造業を誘致したいと考えているが、それは高い目標であるため、まずはその足掛かりとなるような取組を、この3年間で進めていきたいと考えている。

一方で、鳥取砂丘周辺では、小ロットで展開するスイーツ店が観光客から高い支持を得ており、隙間産業的な形でも十分に成立している事例が見られる。

こうした取組は比較的着手しやすいことから、若い世代が福部町に関心を持ち、地域に定着するきっかけとなるような仕組みづくりにつなげていきたいと考えている。

**【委員】** 冬季は鳥取砂丘への観光客が減少するため、観光客の少ない時期を活用し、関係者と連携しながら新たな企画や取組を検討してもらってはどうか。

**【事務局】** 春から秋に比べ、冬季は観光業にとって非常に厳しい時期となるため、季節的な閑散期を見据えた対策が必要であると考えます。

また、可能であれば、季節に左右されず通年で事業展開が可能な産業となるよう、その方向性について検討していく必要がある。

**【委員】** 鳥取砂丘という魅力的な地域資源が福部町には存在しており、その活用次第では年間160万人を超える観光客の更なる誘客も可能であると考えている。

このため、福部町の可能性に対して夢を持ち、前向きにチャレンジできるような人材が応募したくなるような募集要項を作成していただきたい。

## (2) 福部地域振興未来プラン実施計画の期末評価について

【事務局】 ～資料に沿って説明～

【委員】 自主防災会に関連して、町内には防災リーダーがおよそ 10 名程度いるが、高齢化が進んでいる状況である。区長会などで新たな人材の呼びかけは行っているものの、仕事との両立が難しいこともあり、手を挙げる人は少ない。  
令和8年度は、町内の防災リーダーの養成に力を入れたいと考えている。近年、災害が非常に多く発生していることを踏まえ、住民の防災意識を高めるため、自主防災会の活動を積極的に推進していきたい。

【委員】 防犯カメラは各地集落の公民館に設置することは可能か。

【事務局】 各集落の公民館に防犯カメラを設置することは、現実的には難しいと考えられる。  
機器自体は比較的低コストで導入できるものの、現在の多くのカメラはインターネット接続が必要な仕様であり、運用にかかるランニングコストが高くなる可能性がある。

【委員】 空き家対策について、岩戸地域で開催された地域活性化に向けたワークショップの詳細を聞かせて欲しい。

【事務局】 岩戸地区のアウトドア複合施設では、施設建設に携わった国士館大学の教授を招き、8月(プレイベント)と10月にワークショップが開催された。  
建築家を目指す県内外の学生が参加され、福部町総合支所も登壇して、福部地域未来プランに沿った町の課題について説明を行った。

開 会